

国宝土偶を

人形劇に

縄文どんぐりカフェ

29日お披露目

茅野市の市民活動団体「縄文どんぐりカフェ」(鵜飼恭子代表)は、同市内で出土した二つの国宝土偶「縄文のビーナス」「仮面の女神」を主人公にした人形劇を創作した。登場する人形は団体メンバーでもある創作人形作家、古田文さん・原村一が手作り。29日に同市米沢地区コミュニティセンターで開くイベント「縄文絵本おはなし会」でお披露目する。

イベントは、同市米沢の棚

畑遺跡で出土した縄文のビーナスが6月に国宝指定30周年を迎えることを記念した企画。人形劇は縄文時代の世界観を背景に、二つの国宝土偶や「黒曜石の精霊」が登場する物語を創作した。

縄文のビーナスと仮面の女神の人形は、フェルトを縫い合わせて顔や模様を刺しゅうし、中に綿を詰めた。全長約30センチで、手を入れて動かすことができる。男女2人の縄文人、ナレーター役もフェルト

で制作。黒曜石の精霊の人形は本格的で、麻の衣装をまと



「縄文のビーナス」「仮面の女神」などの人形が登場する人形劇を創作した縄文どんぐりカフェのメンバー

い黒曜石のネックレスなどを付けている。

計6体の人形を作った古田さんは「子どもたちの印象に残るようビビッドな色合いにした。威厳とユーモアを兼ね備えるのが難しかった」と話した。

同団体は、国宝土偶2体の人形を「土偶シスターズ」と命名。鵜飼代表は「マスコットとして広めたい。子どもた

期待している。

イベントは29日午前9時から。申し込み不要で参加無料。人形劇のほか、絵本「2つの国宝土偶と黒曜石」の読み聞かせ、縄文のビーナスのお守り作り(事前予約が必要、参加費500円)などを行う。予約、問い合わせは鵜飼代表(電話090・8747・5125)へ。

(宮沢知史)